

お盆のお供えについて

毎年暑い夏が訪れ、七夕、土用の丑の日と日々が過ぎていくにつれて、暑さが盛りを迎え、そしてすっかり暑さになれた頃、お盆がやってきます。お盆とは盂蘭盆と言葉を略したものです。盂蘭盆には盂蘭盆会をお勤めするのが本来ですが、現在一般に盂蘭盆施餓鬼会をお勤めしておりますことは前に述べました。今回は日本で昔から盂蘭盆会にどのようなお盆のお供えをしてきたかを調べて、その意味と今日何をお供えすればよいかをあわせて考えたいと思います。

近年便利なことにお盆になるとスーパーマーケットでお盆のお供えセットとでも言うべきものが売られております。野菜と干菓子を中心にパックした様子は、これさえ買えばお供えは充分とでも言いたげな風情ですが、はたして中身はどうでしょうか。家々によって昔から伝えられたお供えと内容が違ふことも多いはずで、どうしてものかを考えてみたいと思います。

宮中では盂蘭盆会の供物は「大膳職の職掌（後に内蔵寮に移る）で、十四日に天皇による供物の御拝があり、翌十五日に供物は盂蘭盆会のために寺院に届けられました。この供物は、『延喜式』卷三十三によると、米・小麦・大豆・胡麻・味噌・酢・塩・昆布・芥子・青大豆・青瓜・茄子・青橘子・梨子・桃子などが記載されております。

やはり驚かされるのは、胡麻・味噌・酢・塩・昆布・芥子と言った品物ですが、これらは調味料と言ったところでしょうか。米は最も基本的な供物でどんなときにもお供えしますし、青橘子・梨子・桃子などの果物は水菓子と言ってお菓子としてお供えします。小麦・大豆・青大豆・青瓜・茄子と言ったところはすべて畑の作物で、夏だからお供えができません。つまり、畑の野菜がお盆の供物の中心だと申せましょう。

ところで、畑の作物の代表は何でしょうか。たぶん小麦が妥当だと思われます。では、小麦を皆さんのお家ではどのようにお供えになっておられるでしょうか。意外と思われるかも知れませんが、お盆の棚にお供えになっておられるそうめんが小麦の供物なのです。実はそうめんが、田の米とお餅の関係同様に畑の代表なのです。

お盆は秋祭りと同様に収穫祭の意味があるという学説があります。秋は田の収穫祭でお盆は畑の収穫祭と考えられるそうです。だから、畑の作物をいろいろとたくさん供えるのだと考えればよいのだと思います。また、御先祖様に感謝の気持ちを捧げるときに、その季節にとれた最も旬のものをと考えるてもよいと思います。

お盆には畑の作物を中心に様々な供物を供えるということだといえましょう。また、どのお供えも実際に自分が食べるつもりで、心をこめて用意されることが大切だと思います。そしてその真心こそが最も功德のあるお供えといえるのではないのでしょうか。